

あおい雲 じろい雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース

2014年度第1号

平成26年5月18日発行

発行者 長野県手をつなぐ育成会

会長 中村 彰

380-0928 長野市若里7-1-7

長野県社会福祉総合センター5F

TEL 026-227-6811

FAX 026-227-6836

ikuseikai-nagano@cyber.ocn.ne.jp

過去（きのう）を顧みて 将来（あす）を想い（願い）共に創る

会創設50年を経た今、私たち育成会は何を糧に、何処へ向かっていくべきなのか…。



昨年7月の大会で共有した取り組みテーマは、

- ① 幼少年期の教育と療育に関する「学ぶ場」
- ② 青壮年期の就労と地域共生に関する「働く場」「共に過ごす場」
- ③ 高齢期、高齢化に伴う対応と終の棲家に関する「安心の場」の三項目。

①と②は以前から関係者・機関等を交え様々な観点から活動が成され、まだまだ不十分とはいえ一定の成果も挙げてきているものと思います。三障害団体長と知事との懇談会、県育成会正副会長と県担当部局との懇談会等において、しっかりと実情ならびに課題・要望等を申し入れ、より良き方向へと少しずつではありますが進展しているものと捉えています。

しかしながら、③については未だ俎上にすら乗っていない感があり、大いに議論喚起を願うものです。この件に関しては、一昨年より県知的障害福祉協会の皆様と情報共有・協議し、高齢知的障害者に関する入居・支援施設等での取り組み事例や状況等について冊子発行、今後に繋げる大きな一歩となりました。

人は、いずれ死に行くもの。生を受け、成長して行く・健やかに過ごす過程における「学ぶ場」「働く場」「共に過ごす場」そして「安心の場」は、障害の有無にかかわらず誰もが等しく持ち得る『人権』に係る一大テーマです。

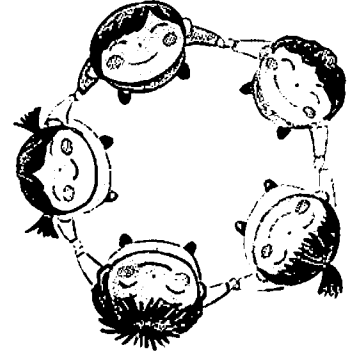
どれもこれも軽視できない大事なテーマですので、今後は各テーマに更なる拍車を掛けるべく、新たな取り組み方法等を模索してまいりたいと考えます。会員各位のご協力方、何卒よろしくお願い申し上げます。

長野県手をつなぐ育成会
会長 中村 彰

臨時総会「会費徴収の賦課方式の変更」の議事案討議の報告

～平成26年1月25日 長野県社会福祉総合センターにおいて臨時総会が行われました～

先の「青い空白い雲」でご案内した
「県育成会への会費納入の変更案」
に関し、熱心な議論が交わされました。
主なご意見をご紹介します。
会員の皆さまも今後の育成会活動の行方と共に
関心を持って考えていただきたくお願い申し上げます。



「会員の数の把握の時期はいつ？」

各町村の総会の時期も大方5月くらいとするならば3月？4月？」

「一人1,000円の意義って？」

「現行の市民人口×1円ということで市より本会計の半額分の補助をもらっている。
会員数×1,000円となると今までどうりの補助が可能かわからない」

「小さい団体(市町村)は少ない会員数で社協からの補助を受けながらやりくりしている。
提案の一人あたりの割り当てとなると現在の納入金額から減額となるのが7団体
あとは増額で私の所は今までの3倍の請求金額となってしまう」

「会費一人あたり1,000円結構。」

育成会の役割をきちんと認識すべきでは？

今までの育成会の活動で子供らは障害者年金をもらえるようになった。
これからもどう運動していくのか考えることが大事」

「新しい会員が増えない会員の数は療育手帳を持っている該当者の10%にも満たない。
会員のメリットは何？と聞かれるが我々は圧力団体だと話すのが、
会員にはなってもらえない」

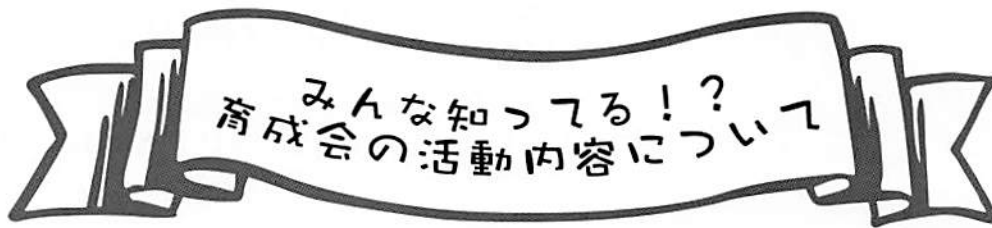
「地元に戻って会員の意見を聞きたい、会費の値上げとなる今回の提案は
一人ひとり丁寧に話をして皆の意見を聞きたい。
このままだと会員が減り育成期が消滅していくのではないか」

これらの意見をもとに中村会長より以下のような提案がなされ可決されました。

「今日は結論を出さない。

来年度の会費徴収は従来どおりとし、来年度に正副会長会・事務局、代議員（選出方法はこちらに一任させてもらう）から地区の代表者として地元の意見を持ち寄ってもらい1年かけて検討していくことにする」

育成会の役割と共に一人ひとりが考えていくべき問題だと思います。



2012年第2号で予告しておきながら、掲載が途絶えてしまった「社会福祉法人長野県知的障害者育成会」の事業内容をご紹介します。



平成14年に法人格を取得して第1号に設立されたのが小規模通所授産施設(当時)久堅農園(現在就労継続支援B事業、グループホーム・ケアホーム)です。

その後市で運営していた飯田市東栄町の施設「あいあい」も育成会の法人の施設として久堅農園と共に運営することになり合併してLサポートと名前も改めました。

「一人ひとりの障害に違いはあってもだれもが心安らかでありたい」という願いに応えるべく多機能型事業所としての特徴を生かした事業を日々展開し利用者さん職員ともに元気に活動しています。

主な自主製品は米・ネギの農産物・施餓鬼(せがき)用の旗棒・飯田名産の五平餅用の竹串・市田柿と地域の特色を生かした生産から機織り・編み物・石鹸づくり・陶器製品・リサイクル活動の定番作業まで利用者のみなさん一人ひとりに合う活動を展開しています。

現在の久堅農園は共同生活介護・支援事業としてグループホーム運営をしており東栄町の利用者さんの生活訓練の場としても利用しています。



Lサポート
(サントピア内1階)



グループホーム



おいしいお米が取れる田

心のリフレッシュとして「お花見・緑陰を訪ねる・紅葉狩り・クリスマス会食」と季節に応じた行事で身近にある豊かな自然を満喫しています。

農業生活の区切りには五平餅会・焼肉会・旅行などを楽しみに日々の農作業の励みにしています。

飯田養護学校の生徒の実習を積極的に受け入れ施設利用のアピールにも努力しています。

コト タイム

わたしたちの育成会

今年度、県下で開催された各事業です。
みなさんどんなところで何をしているのかな…



ふれあい支援事業 開催報告

人気ナンバー1！カラオケ大会
みんなで遊ぶならこれ！ボーリング大会
毎年盛り上がります！クリスマス会
こんなことも頑張りました！陶芸教室

★療育キャンプと自然探勝会

南信地区（自然探勝会）

→南箕輪村大芝高原大芝荘

東信地区（自然探勝会）

→長和町八王子市姫木平自然の家

長野市地区（療育キャンプ）

→いこいの村アゼリア飯綱高原

中信地区（自然探勝会）

→木曾大滝村名古屋市民おんたけ休暇村

★自然探勝会

全県対象…飯田市妙琴公園

東筑摩郡…麻績村聖高原



訃報

大槻 正春氏

南信地区協議会会長

県副会長・法人副理事長

平成26年3月19日永眠 享年76歳



育成会のみならず西駒郷の地域化に精力的にご尽力されました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

全日本手をつなぐ育成会の転機、県育成会の重鎮大槻氏の急逝。
大切な物を忘れてきた中で未知の地を旅する気分ですが
『障害があっても幸せな人生がおくれる社会の形成』をめざし
今後も皆さんと心をつないで活動してまいります。

事務局